



発行所 財団法人兵庫県消防協会 神戸市中央区下山手通4丁目16番3号 編集発行人 関山 巧 定価 1部金44円 題字 神戸市消防局

あなたです 火のあるくらしの 見はり役

平成十七年度

日本消防協会定例表彰式

平成十七年度日本消防協定会定例表彰式が、二月十日(金)午後一時より東京虎ノ門の日本消防会館ニッショーホールにて盛大に開催されました。

国歌斉唱、消防殉職者に対する黙祷に続き、徳田日本消防協会会長の挨拶があり、会長から受章代表者に表彰状が授与されました。その後、内閣総理大臣の祝辞、受章者代表謝辞があり、万歳三唱により閉会しました。なお、本県の受章者・団体は次のとおりです。

(敬称略)

Table listing award recipients under categories: 表彰旗 (1 group), 竿頭綬 (3 groups), 功績章 (43 names), 精進章 (106 names), 勤続章 (212 names), 優良婦人消防隊 (1 team), 表彰旗 (豊岡市城崎消防団).

Main table listing award recipients by fire station, including names and titles (e.g., 神戸市西消防団 副団長 松井 肇).

Table listing award recipients by fire station, including names and titles (e.g., 神戸市東灘消防団 分団長 小川 實).

Table listing award recipients by fire station, including names and titles (e.g., たつの市揖保川消防団 団員 野勢 孝幸).

Table listing award recipients by fire station, including names and titles (e.g., 安曇市山崎消防団 分団長 谷井 正信).

Table listing award recipients by fire station, including names and titles (e.g., 神戸市東灘消防団 副分団長 植詰 啓博).

姫路市姫路東消防団

坪田 裕 団長



JR姫路駅に下り立つと、白鷺城の別名がある世界文化遺産・国宝姫路城がそびえ立ち、姫路市を訪れる観光客の多くが登閣され、天守閣から見える素晴らしい

しい眺望は、充分堪能して頂けると思います。

姫路東消防団は、姫路市の玄関口であるJR姫路駅を中心とした、繁華街で賑わう中心部から北東部に広がる地域の皆さんの安全と安心を守るため、防火防災活動を行っています。

わが団長は、昭和四九年に入団され、以来三一年地域の防災リーダーとして活躍され、平成十七年四月、消防団長に就任され、七二〇人のリーダーとして、また市内四消防団の連携強化に

わがまちの団長さん

132

「団員一丸となって」

明石市消防団

荻野 忠 志 団長



わが町明石は、子午線の町としても知られ、目前には明石海峡が、その向うの淡路島とを結ぶ世界最長の吊橋明石海峡大橋と、万葉の昔から歌に読まれた、

風光明媚な所であります。

また、明石は今から三八八年前の元和三年(一六一七)に、初代城主小笠原忠真公により現在の明石城(喜喜春城)が築かれ、食客であった宮本武蔵玄信により魚の棚等の町割がされたそうです。この明石城より古い船上城という城跡が残っている町です。

荻野団長は、その町の消防団に入団し、四二年間の貴重な経験と実績、そして人望の厚さにより、平成十七年四月に明石市の第十代目の団長になられました。

北から南から

「スアンパン」(中国語)のまち「小野」

小野市消防団

小野市は、東播磨地域のほぼ中央に位置しています。明治二二年の市制町村制施行により、小野村(のち小野町)、河合、来住、市場、大部、下東条、福田の村が誕生しましたが、昭和二年四月一日には加東郡六ヶ町村が合併して市制を施行、昭和三年四月一日には加東郡

社町の久保木、古川を編入合併し、現在の小野市が誕生しました。古くからそばんと家庭用刃物の生産地として、県内外の方にも知られていました。そこで、昭和五年(一九七六年)通産大臣指定の「伝統工芸品」となりました。「そばん」について、紹介いたします。

そばんの語源は、中国語の「スアンパン」から転化したものと考えられています。そばんの発祥は古く、メソポタミア時代(紀元前三〇〇〇年代)に遡ることが出来ます。その頃は、粘土板に線や記号で数を表していました。

日本のそばんは、中国の末期以後発達したものが、室町時代



伝統工芸品の播州そばん

焚火!



2006 TORUGA HAN-AI 2



そばんの組立工程風景



伝統工芸品の播州そばん

代文安元年(一四四四年)頃、中国商人が通商取引の為、我が国に伝え、当時、京都で毛利勘兵衛重能が指導して以来普及していったものと言われていました。そばんの製造は、長崎で始まり、慶長年間(一五九六年～一六一五年)に、長崎から大津に製法が伝わりました。当時、大津は交通の要で、商業の盛んな大阪と京都に近接していたこともあり、そばんの製造が発達しました。それが、大津そばんと言われるものです。しかし、天正八年(一五八〇年)豊臣秀吉(当時「羽柴秀吉」)が、小野市の隣町三木市の三木城を攻略した際、戦火を逃れた住民の一部が大津方面に避難し、そこでそばんの製法を習得し、地元へ帰郷後製造を始めたのが、播州そばんの起源だと言われています。はじめは、三木市中心に製造されていましたが、周辺地域に伝播するにつれて、小野市に中心が移行していったのです。以上の説は、あくまで伝承(言い伝え)であって、真実は不明です。

- ・操法最適ホース: コンベV コスモAJ
- ・小型動力ポンプ: ラビットダイヤモンドフジシリーズ
- ・小型動力ポンプ積載車 (標準型・全自動型)
- ・消防ポンプ自動車 (モリタ)
- ・消防用資機材全般

総合防災コンサルタント
有限会社 **西垣消防器具製作所**
〒669-5213 兵庫県朝来郡和田山町玉置461
TEL: (0796) 72-3131
FAX: (0796) 72-3132
E-mail: fp-nsgk@woc.2net

にそばんを製造していました。気候も木材の乾燥に適していたのです。日清戦争後、小野で水車動力による「大川式製珠機」が手ろくろに代わり発明され、大量生産が可能になり、三木の資本から独立し、小野資本によるそばん製造株式会社を創立したのです。第二次大戦後の昭和二年頃から、日本経済の発展・成長とともに、そばんの需要も伸展し、昭和五年頃の生産量は三、〇〇〇、〇〇〇丁に達しました。ところが、昭和四〇年頃から、電卓の普及によりそばんの需要は急激に減少していったのです。

当市においては、現在、十五名程度の職人の方で製造されており、O.A機器等の普及が進んでいる中、小野市の伝統工芸品である「そばん」を守りつづけ、次世代へ伝承して欲しいと思います。

地区通信

「自分たちの地域は 自分たちで守る」

神戸市長田消防団

ボーダレスに進化する産業都市神戸市のほぼ中央部に位置し、面積十一・五町、人口約一〇〇、〇〇〇人を抱える長田区は、阪神淡路大震災で大きな被害に見舞われましたが、二〇〇一年には新長田一三宮間に神戸市営地下鉄海岸線が開通し、二〇〇二年サッカーW杯日韓開催に役買うなど、都市基盤整備に順調な回復が見られ、JR新長田駅周辺における再開発事業も進んでいます。

震災の教訓

長田消防団では、震災の教訓を風化させることなく、「安全で安心な災害に強いまちづくり」を目指し、日々訓練に励んでいます。その結果、平成十五年には「第六回神戸市小型動力ポンプ操法大会」で長田消防団第七分団が念願の優勝を果たしました。

神戸市消防団小型動力ポンプ操法とは、指揮者以下六人が協力して、小型動力ポンプを搬送し五t水槽に部署した後、五〇mmホースを三本延長、7m先に設置された二種類の標的に放水するタイムレースで、三〇チームが参加して行われます。

実践に即した秋期訓練
本年度も神戸市民防災総合センターで行われた「長田消防団秋期特別研修訓練」では、「規律」「放水技術」の習得に努め、規律ある統率された組織づくりを目的に、規律訓練 部隊行進訓練・放水訓練が実施されました。

また、秋期特別研修訓練以外にも神戸市ポンプ操法大会の実施要綱に準じて、各分団から二チームが出場して競われる「長田消防団ポンプ操法大会」を実施していますが、「第六回神戸市小型動力ポンプ操法大会」での優勝が励み・目標となり、分団間はもとより同じ分団内でも競い合い、技術の研鑽練習が行われています。

地域住民から信頼を得るために長田消防団では、防災福祉コミュニティへの消火訓練指導や、平成十七年から運用され駅・学校等に設置されているAED(自動体外式除細動器)を使用した心肺蘇生法を習得する等、火災に限らず、あらゆる災害に対応出来るよう研修・訓練を欠かさず地域防災の向上を図ることに、地域住民からの期待に応えています。

これからは時代のニーズに基づき、消防団の業務も変わるものと考えられますが、基本を忘れず、消防団の活動に対する理解を得るとともに、地域防災力を向上させ、「自分たちの地域は自分たちで守る」の精神に基づき、住民とともに地域への安全安心を目指します。



迅速・正確な操法

「平成十七年度 女性消防団員研修会」実施

平成十七年度第二回女性消防団員研修会を去る十二月十八日(日)に、神戸市北、芦屋市、川西市、猪名川町、小野市、香寺町、豊岡市出石、朝来市、香美町及び丹波市の県下の女性消防団員四三名が参加のもと、兵庫県立広域防災センターにおいて開催しました。

当初は、数十年ぶりの大寒波による活動発表、昼食をはさみ、午後には礼式、放水訓練及びAED講習等の各種訓練を実施しました。

最初に、消防学校の伊藤教官から「消防団を再び地域(住民自治)からの視点で」というテーマで講義があり、参加者は身近なテーマに真剣なまなざしで聞き入っていました。

その後、まず芦屋市消防団から、防火意識を高めてもらうため消防署を訪れる子供たちや地域の催し等でもしている、動く紙芝居ともいえる「パネルシアター」を披露。続いて、神戸市北消防団有野支団からはパワーポイントを使ってわかりやすく「団活動の紹介」について、同

第五回全国中学生『防火・防災に関する』作文コンクール 三作品が入賞!

兵庫県消防協会

今年度も県内各支部を通して応募いただきました全国中学生『防火・防災に関する』コンクールにおいて、兵庫県から三作品が入賞しました。これを記念し、今月号から入賞作品を掲載します。

なお応募いただいた全作文は作品集にし、県下の消防団、本部や中学校に配布する予定です。

◎優秀賞

朝来市立朝来中学校
三年 北垣 椋光

「カーン・カーン」と消防車からの鐘が聞こえてきます。「あつ、そうか、今日は第一日曜日だな」とすぐにわかりました。

「父と消防の心」

僕も父も約十九年間、第五分団に所属していました。この間、大きな火事で一度だけ出動したそうです。消防団といえれば火事の時の出動だけだと思われていますが、行方不明者の捜査、夏祭りの警戒、また毎年十二月二十九日から三二日までの夜間に巡

僕の住む羽瀨地区を第五分団の人達が巡回してくれています。毎月一回、第一日曜日に消火栓とポンプの点検、放水練習を行っています。「カーン・カーン」と鳴らすのは地区住民に火の元を注意するようにとの呼びかけの意味があるそうです。ああ、今日も守ってくれていると安心します。

父の言葉で心に残っているのは、「消防団員の家から、火を出すな」でした。父の思いを痛感します。

僕達が安心して暮らしているのは警察官や消防官に守られているからです。しかし、その陰に地元の消防団の力がある事を

有馬支団からは心肺蘇生法やAEDの「寸劇」をユーモアも交えた内容でもしるくオリジナリティイっっぱいに披露してもらいました。参加者は、その創造性に大変刺激を受けた様子で、自分たちも何かやりたいという声が多く聞かれました。

午後の各種訓練は、県消防学校教官の熱心な指導のもと、各班に分かれ、礼式、放水訓練、起震車体験及びAED講習を実施しました。寒さにも負けず、熱心に取り組む姿が印象的で、参加者の意識の高さが伝わってきました。

平成十八年一月には神戸市に、四月には加古川市にも東播磨初の女性消防団員が誕生し、県下で女性を採用している消防団は二十になります。



消防学校教官の指導によるAED講習



AEDの寸劇を熱演

ので、女性団員の皆様、ご参加をよろしく願います。



編集後記

立春とは名ばかりで、まだまだ寒い日が続いておりますが、皆様はいかがお過ごしでしょうか。

今月号では、第五八回日本消防協会定例表彰受章者の皆さんを掲載しております。おめでと今ごさいは前明石市消防団長木村正彦さん、篠山市消防団長坂下邦男さんよりご寄稿いただきました。ありがとうございます。

防の警戒で家におらず不安だったそうです。

消防団員は自分の家族や家の事が心配でも出動しなければなりません。父の友人の家では消防の服一式を玄関近くの部屋に置き、すぐに出来るようにしていた人もいます。

父が退団して数年経ちますが、無事に十九年間終えた事が何より嬉しかったそうです。祖父母や母も火事を知らせる放送を聞くとドキッとしたと語ってくれました。父と共に家族も常に命やくらしを守る事の危険や重大さを感じながら過ごしていたのです。